

**Q3：道徳資料を効果的に生かすには、道徳の時間の指導をどのように工夫すればよいか。**

A：道徳の時間では、道徳的な行為を含んだ資料を生かして進める指導が多く行われている。したがって、資料をどのような角度から生かし道徳の授業づくりを進めるかが、学校における大きな課題である。

小学校学習指導要領解説道徳編(p73～p74)では、資料の生かし方として、次のように示している。

その資料を学習指導で効果的に生かすには、登場人物への共感性を中心とした展開にするだけでなく、児童の資料に対する感動を大事にする展開にしたり、問題解決的な思考を重視した展開にしたりするなど、資料の特徴を生かした指導の手順や学習過程の工夫が求められる。(番号、アンダーラインは付加)

各学校においては、これらの例示された資料の生かし方を踏まえ、指導の効果を高める工夫について考える必要がある。例えば、次のような工夫が考えられる。

**〔指導の効果を高める工夫〕**

**登場人物への共感性を中心とした展開**

- ・登場人物の心の動きに抑揚があり、変化が浮き彫りになっている資料を選ぶ。
- ・登場人物に子どもが自分の思いを投影しやすい発問を組み立てる。  
(発問例：～はどう思っているだろう。～は心の中で何を考えているだろう。  
～はどんなふうに迷っているのだろう。～は何を感じていただろう。など)
- ・登場人物の気持ちについての多様な感じ方、考え方を引き出す。  
(役割演技や動作化、劇などの表現活動、心のノートや学習シートの活用等)
- ・多様な感じ方、考え方を類別的、対比的にとらえられるようにする。

**資料に対する感動を大事にする展開**

- ・感動性の豊かな資料を選び出す。(教師も感動するような資料)
- ・資料提示等での雰囲気工夫。(教室環境、効果音の利用等)
- ・感動が表現できる発問や場を工夫する。(発問例:どんなことを強く感じたか。  
どんなところが心に強く残ったか。自分が特に心が動かされたのはどこか。  
そこが心を強く打つのはどうしてか。など)
- ・感動したわけなどについて考えられるようにする。

**問題解決的な思考を重視した展開**

- ・考えたい問題や疑問、こだわりが生まれるような資料を選ぶ。  
(子どもの自己決定がせまられるような資料、問題提起を含んだ資料等)
- ・問題の追求を促す発問の構成を考える。  
(発問例:そうしたのとはどんな考えからだろう。どんな迷いや悩みがあったのだろう。それにはどんな意味があるのだろう。どうすればよかったのだろう。など)
- ・討論的な話し合いなどの場の設定を工夫する。  
(討論的な座席形態、小集団による話し合いなどの工夫)
- ・必要に応じて事実を確かめる資料を用意する。(補助資料による確かめなどの工夫)